

以上でこの実験の結果は、最初期待した程の大きな変化が好みの序列に見出す事は出来なかったが、保母が胸につけた花の影響を受けて、それが好みの序列に反映した事は確かであると、云う事は出来る。

幼児の知能に関する調査

愛育研究所 村山貞雄

和田礼子

伊勢山はつ

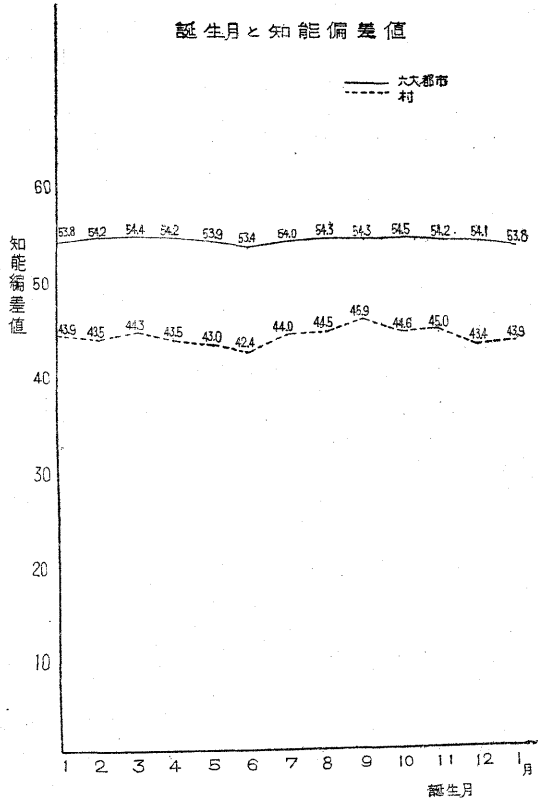
わが国の幼児の知能を団体的に検査して、相当数の幼児の知能について種々の調査をこころみることが、私達の研究の目的である。すなわち、幼児の知能について統計をとる場合、広い地域にわたってできるだけ多数の幼児について調査をすることが大切であると考えられる。そのために、幼児を団体的に測定することを考えた。そこで、幼児に適用される知能検査を利用しようとしたが、私達の希望にあうものがなかったので、知能検査用紙をまず作成した。幼児の知能を団体的に測定することは困難であるが、その原因を調査したところ、第一に近所の者の答をみたり、または逆に教えてやったりすること、それから第二に、幼児が検査にのって来ないこと、この二つが大きな原因であることが分った。

そこで、第一の困難な原因であるとなりの者を見たり逆に教えたりにすることを防ぐために、この検査用紙では、調査用紙を第一部と第二部の二種類作成し、これを一人おきにくばるようにした。この一部と二部は、検査者の指示や、検査の方法や、頁をあらわすカットなどはまったく同じであるが、答の位置や答の内容が違っているから、検査者は全体の幼児を同時に検査できるが、被検者である幼児がとなりの者をもみても役に立たぬことになる。そこでカンニングを防ぐことができた。

第二の困難な原因である検査にのらないことを防ぐために、問題は、一頁に一つだけとして、解答法はすべてクレヨンで丸を一つつけるだけにした。また問題の上に問題のありかを示すためのカットを大きく印刷した。それでも、なお用紙をひらいたときに、両方を見る幼児があるので、右の頁を青で印刷し、左の頁を赤で印刷した。調査の方法は、この検査を二回に分けておこなうようにし、第一回目から約十日ぐらい経った時にもう一回、今度は、一回目に第一部をやった者は第二部を、一回目に第二部をやった者は第一部をやるようにしたが、このようにすると、一回の検査が大体二十五分以内で済むので、幼児があきてしまつていい加減に答えることを防ぐことができた。しかも、二回調査することによって、検査の量がかなり多くなるので、大体精密に測定できた。なお幼児の検査に特にありがちなことであるが、その時のコンディションのむらによって生じる検査結果の影響を、検査に二回に分けておこなうことによつてかなり防げた。

なお採点は、上の頁の数字のまわりにある九つの星印の中に点を

誕生月と知能偏差値



ころ、どちらも同じような傾向、たとえば、三月頃に生れた者の知能が高く、六月頃に生れた者が低くでていることは興味をひいた。また村の方に生れ月による差が多いことは、もし生れ月による差が有意の差であるとした場合この四季か何かの自然の相異が都市のよりも文化的の生活では影響が少なくなると考えられるもので、もしこのようなことが、他の人々の再調査によって証明されたら面白い。

次に家庭と幼児の関係を調べたが、そのうち、ここに家庭の職業と知能との関係をあげてみました。この表で、線でかこんだのは調査人員千名以上、下に線を引いたものは調査人員百名以上のもので

ある。家庭の職業と知能との関係は、乱数表で抽出された小学低学年・小学高学年・中学校・高等学校の児童生徒八万名についても別に調査をし、調査結果を出したのであるが、大体似たり寄ったりで、法人・会社の役員・重役・教員・医師はいずれの場合も高く出、ついで公務員・商業・会社員・工員等があらわれており、わが国の人口の半ばを占める農業は、いずれの場合もきわめて低くでている。このように人口の半ばを占める農家の子どもも知能が、非常に低いということは、わが国の子どもも知能を考えるとき、もし農家の子どもなどをあまり考えずに基準をつくったりすると、非常にまちがった基準ができ、誤った結果を生じる危険があることを示すものであると言えるであろう。

なお知能の低いものとしては、いずれの場合も、無職・日雇・農業・漁業・農漁業・船員・行商・鉦屋などがあらわれている。そして、これらの職業は、農業をはじめと比較的人数が多いので、常に表は知能偏差値五十よりも上に大部分の職業があらわれる結果になった。

次に、いろいろな知能検査をしらべてみたところ、相関係数は、大体〇・六ぐらいであるが、知能値ではかなり違うものもある。右の数字は、この検査で知能指数が百のとき、これらの検査ではいくらかを示したもので、*のついたのは、知能偏差値をあらわす。この結果に差のあることは、いずれかの検査にバイアスがあることを示すもので、現在では、知能指数がいくらといっても、使用した

家庭の職業と子弟の知能偏差値

知能偏差値の平均値	家庭の職業
57	卸業
56	法人会社の役員および重役 医師 雑貨屋
55	洗濯屋 銀行員 履物屋 洋品雑貨商
54	染物屋 教員 塗装業
53	歯科医 時計貴金属商 郵便局員 僧侶 呉服屋 家具屋
52	建具師 <u>会社員</u> 鉄道公社員 理髪屋 公務員
51	技師 町工場経営 警察官 労働者 菓子屋 駐留軍勤務者 土建業 自転車屋 飲食業 製造業 電気工 業屋
50	店員 酒屋 手内職 問屋 個人会社経営 運転手 商業
49	仕立屋 とび職 洋服屋 八百屋 佐官
48	大工 <u>工員</u> 人夫
47	保安隊 無職 風呂屋 日雇い 豆腐屋
46	<u>農業</u> 鋤夫
45	靴屋 魚屋 行商 運送業 船員

検査によって考えることが必要な段階にあるといえるであろう。次に、施設間の相異などについて調べたのであるが、その一例を示すと、三図にあるように、六大都市・市・町・村いずれも、幼稚園の方が保育所よりも知能偏差値の平均が高く、また都市化された

他の知能検査法との知能指数の比較

比較された知能検査法	相関係数	知能指数
WISC 知能診断検査法	.64	95.50
絵本低学年団体知能検査	.77	108.49
新乙式団体知能検査	.63	101.24
自由画による幼年児童知能テスト	.30	101.16
鈴木ビネー式知能検査法	.37	100.15
全学式診断知能テスト	.43	36.73*
田中ビネー式知能検査法	.72	94.72
低学年用知能テスト	.47	102.16
点数式田中個別知能検査法	.39	53.59*
乳幼児精神発達検査	.36	97.16
三浦B式新入児童一、二学年用知能テスト	.70	125.51
村山式知能検査低学年用甲種	.75	51.85*
幼児低学年用B式団体知能検査	.57	57.98*
幼児用田中B式知能検査	.59	85.55

*印は偏差値

地域が都市化されない地域よりも知能が高くている。(図省略)
次に個人差について、いろいろ調べたのであるが、知能偏差値二十以下が〇・八〇%すなわち、百人に約一人であった。また知能偏差値七十以上が一・八八%、すなわち五十人に約一人である。なお以上の調査は愛育研究所の教養部においておこなわれたものであるが、日本女子大学で非常な協力を得たことを附言して、わたしたちの発表を終わります。